

ドイツ留学の参考までに

ー ベルリンとボン、2都市の留学を経験して ー

2016.10.

筑波大学比較文化学類4年のとき、2015年9月から2016年の2月までボン、2016年3月から8月までベルリンで留学していました。これから留学に飛び立つ方、留学を考えている方に少しでも参考になればうれしいです。留学先での冒険を楽しみたい方は、そっと閉じていただいて結構です。

S.G.

～留学前の準備～

1. 保険

保険は大学に入るときの入学手続きに必要なものです。ボンでもベルリンでも大学と提携する保険（ボンはTK、ベルリンはAOK）に加入することを勧められます。月80€もかかります。大学の勧める保険以外に加入するときには、歯の治療と、女性なら婦人科系の医療が受けられる保険であるかどうかを見るそうです。入学手続きの時にボンでは自動的に契約させられそうになったので加入済みの人は断りましょう。

2. 通信

ボンの寮では筑波の寮と同じように有線でインターネットがあったので、ルーターを持っていった方がいいです。ベルリンのHalbauer Wegの寮にはWifiがありませんでした。大学にはWifiがあるので、Wifiだけで生活することもできますが、ドイツはそこまでWifiにあふれた国ではないのでこちらで通信を契約することをお勧めします。私はドイツに来る前に日本の携帯のSIMを解除して、ドイツのSIMカードを入れて生活していました。

3. 書類

各大学の指示に従う。ボンの場合には、健康診断書（ボン大学指定のフォーマット使用）、英文の高校の卒業証明書の提出が求められ、発行などに時間がかかる場合があります。ぎりぎりに準備していると危険なので、書類は留学を決めたらなるべく早く準備に取り掛かりましょう。

4. 銀行

きっとほかに良い方法があるかもしれませんが…、私はドイツで現金を手にする方法として、三井住友信託銀行の国際バンクをつかってドイツのATMで下ろしていました。日本で円として預金し、ドイツでユーロとして引き出すことができ、家族もキャッシュカードを作れるので家族からの支援も簡単に受け取れます。ドイツでつくった銀行に日本から送金するよりも安くできると思います。

5. ビザ

ヨーロッパで3カ月以上滞在する場合は、ビザの発行が必要です。ドイツ留学では現地でも手続きをすることができますが、日本で事前に取得することをお勧めします。というのは、ボンでは大学が留学生のために手続きを代理で行ってくれますが、その際に1カ月間パスポートの原本を預けなくてはいけないためその間旅行ができなくなる、またベルリンでは自力でやることになるのですがビザの申請者が多く、早朝から長時間並んでビザを取らなければならなくなるためです。現地での不安材料は少ない方がいいと思うので事前

の方がよいと思います。私はベルリンで、ビザのために7時間待ちました。

～生活編～

1. 居住

私はボンでもベルリンでも寮に住みました。部屋の質や快適度は大学によっても寮によっても、そしてフラットによっても違います。ボンは志望書類の提出の時点で完全1人部屋か複数人でシャワートイレキッチンを共有する部屋か聞かれました。私はホステルなどの生活に慣れていたので後者のシェアする方を選びました。7人共用の閉じられたフラットで、食器もシェアできることは利点でしたが、ごみの当番をやらない人がほとんどだったりキッチンの使い方のマナーがなくなったり私のフラットはあまりよくありませんでした。値段は1人部屋が350€くらい、共有が250€だったと思いますがうろ覚えなのと、寮によって値段が変わるのではっきりとわかりません。ちなみに私の部屋は243€で、寮は大学からバスで10分ほどのKaufmann Str.というところにありました。大学からの距離は寮によってさまざまで、完全1人部屋の人はいたい大学から遠い寮だったと記憶しています。

ベルリンの寮は自力でドイツ語のホームページを見ながら取りました。留学が決まった時にどのホームページで探せばよいか教えてもらえるので、その中から自分にあったものを探す、という形です。私はHalbauwer Wegという家賃が200€の一番安い寮でしたが、ボンよりもきれいで広くて最高でした。トイレとシャワーは隣の人と2人で共用でした。大学へはバスを乗り継いで40分。ベルリンの中央に行くのに40分くらいです。

2. 交通

ドイツでは大学生は、学期初めに学生証代(240€くらい?)を支払えば、州の公共交通が無料になります。ボン・ケルン・デュッセルドルフのあるノルトラインウェストファーレン州は、かなり大きな州だったので、先の3都市以外にも、エッセンやアーヘン、ドルトムントなどへもICEなどの特急以外を使えば無料で訪れることができます。ベルリンの場合は、ベルリン特別州とお隣のポツダムまでの範囲なので少し狭く感じられますが、ベルリン自体に訪れたいところがたくさんあったので、充分恩恵は受けられました。留学の際はせっかくなのでジャンジャン使うといいですよ。

3. 物価

ドイツの物価は基本的に日本よりも安いです。ボンとベルリンではほとんど差がありませんでした。特に食料品などの必需品はMarktに行けばかなり安く済みます。お酒も、ビールやワインなんかは驚くほど低い値段で買えます。ベルリンでは、おしゃれな古着屋さんがたくさんあったので、服も安く手に入りました。

4. 日本食

ドイツでは、日本食にはほとんど苦労しませんでした。というのも、ボンでもベルリンでも日本食レストランが存在し、日本食の材料を買うことも可能だったからです。ベルリンには多くの“アジアスーパー”があります。ここでは、アジアの食材や調味料が買え、おたふくソースやニラなども変えました。ボンでは、中心地には私の知る限り小さな中国系のお店1つで少なかったのですが、ボンの場合は近くに日本人がたくさんいることで有名なデュッセルドルフがあるので、そこまで足を延ばせばほとんどの物は買えました。また、ラーメン屋さんもたくさんありました。

4. ドイツに持って行って良かったもの

- ・洗顔
- ・ルーター
- ・カイロ
- ・

～大学編～

1. ドイツ語の授業

ボンとベルリンでは大きな違いがありました。ボンでは交換留学生は必ず週 3～4 日計 15 時間程度指定されたドイツ語のクラスを受けなければなりません。先生も遅刻や欠席には細かく注意してきますし、しっかりカリキュラムに沿って教科書と文法書を使って毎日たっぷり授業という印象がありました。ベルリンではドイツ語の授業は必須ではなく、週 1、2 回です。時間帯や先生もある範囲の中から選べ、希望も聞いてくれました。授業の質は先生に寄りますが、私のいたクラスは適当でした。ほかの留学生の中には大学と関係のない機関で別にお金を払って勉強している人もいました。私は「タンデム」といって、日本語を勉強したいドイツ人の学生に日本語を教える代わりにドイツ語を教えてもらう取り組みで無料で勉強していました。

2. 語学以外の授業

留学生が受けられる通常授業もボンとベルリンではかなり異なっていました。ボンでは、留学生用の授業もあるのですが、「ドイツの地理」や「発音」などで、専門に関わるような留学生用の授業はほとんど開設されていませんでした。先生も語学の先生が片手間で緩くやっている感じだったので、専門的な知識というよりは、ドイツやドイツ語についての知識を高めるような授業で、私は一つも取っていません。その代り、ボンの留学生は、自分の専門で受けたい授業があれば、担当の教授に許可を得て、普通のドイツ人に混ざって授業を受けることができます。授業自体は高いドイツ語のレベルをもちろん求められますが、私のとっていた先生方は私が留学生であることを考慮して、レポートまたは発表の免除などの措置を取ってくださり、評価も非常にお優しいです。

ベルリンは、留学生のみの授業が幅広い範囲で提供されていました。先生方も、大学の教授が教えていて、通常の大学の授業そのものでした。毎週の課題、発表、レポート、テストがあり、単に出席して発表したぐらいでは単位は来ません。でも終わったところにはたくさんドイツ語を読んで、発表やテストを重ねているのでその分やについてかなり深い知識を持ちました。ドイツ語で行われる留学生用の専門的な授業はドイツ語のレベルが最低でも B1 以上からしか開設されていません。英語の授業も少し用意されているので、それ以下の場合は英語の授業を取ることはできると思います。また、ベルリン自由大学だけでなくベルリンにある、ベルリン工科大学やフンボルト大学の授業も教授と連絡がとれればとることは可能です。

3. ほかの留学生

ボン大学は、韓国、日本、台湾、アメリカからの留学生でほとんどでしたが、ベルリンは、主にヨーロッパ各地から来ていて、アジアは少数派でした。ボン大学では、ドイツ語が初級レベルの留学生もたくさんいて、

特にアジアから来た人たちは授業外でも、カタコトのドイツ語で一生懸命しゃべる雰囲気がありました。ベルリンでは、ヨーロッパからの留学生が多く、母国語並みに英語を話す人が多かったので留学生同士では、授業外では英語を使うことも通常でした。私の場合、ボンでとにかくドイツ語を勉強した結果、いきなり英語で話しかけられたときに切り替えができずに対応できなくなるという事態が起きました。ベルリンに行き、使い分ける場面が増え、頭の切り替えのよいトレーニングになりました。